

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00161

研究課題名(和文) マレー半島・インドネシア諸島における密教美術の総合的調査研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Tantric Buddhist Art in the Malay Peninsula and the Indonesian Islands

研究代表者

伊藤 奈保子 (ITO, NAOKO)

広島大学・人間社会科学研究科(文)・准教授

研究者番号：20452625

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：インドネシアの中部ジャワ地域を中心とした仏教寺院の単独像およびレリーフを研究対象として密教に関連する総合的な考察を行い、それらを著書1冊『改訂版 インドネシアの宗教美術 鑄造像と法具の世界』(320頁)、和文論文2編、英文論文4編に著した。密教の仏像のなかでも「八大菩薩」を形成するうちの文殊菩薩、弥勒菩薩をとりあげ、インドネシアの文殊菩薩の図像には童子形を意図する「三日月形」が頭部背後に表現されることをボロブドゥールやムンドットウの寺院レリーフと単独像から確認した。またプラオサン寺院では「八大菩薩」のうちの二尊を除いた六尊形式であり、密教美術が8世紀頃には信仰されていた可能性を導き出した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インドネシア・マレー半島における密教美術の存在が指摘されながらもその詳細な研究報告は限られている。今回インドネシアの仏教寺院や博物館をはじめ海外所蔵の像を含めて密教に関する像の図像の特徴を明らかにしたこと、またマレー半島の像がスマトラと関連していることなどを確認し、それを書籍出版できたことは東南アジアへの密教流伝の一解明をもたらすものと考えられ、今後の研究の前進が期待できる。またこの成果は密教が流伝した地域の作例との比較対象となりえる。インドネシアは現在イスラム教が9割を占めるが、8世紀頃にはインドからの海路により密教流伝がされ、日本の密教伝来に深く関わっていたという史実が社会へ明示できる。

研究成果の概要(英文)：I conducted research on single statues and reliefs of Buddhist temples mainly in the Central Java region of Indonesia, and examined them in relation to esoteric Buddhism. I have written one book, "Revised Edition of Indonesian Religious Art: The World of Bronzes and Tantric Implements," two papers in Japanese and three papers in English. The "Eight Great Bodhisattvas" are characteristic of Tantric Buddhist statues. I have studied the eight major bodhisattvas, especially Manjusri (文殊菩薩) and Maitreya (弥勒菩薩), and have found from reliefs and statues in Borobudur and Mundet temples that a "crescent" appears behind the head of Manjusri as a symbol for a child in Indonesian statues of the bodhisattva. In addition, the Plaosan temple has a "six-person form" excluding two of the "eight great bodhisattvas," suggesting the possibility that Tantric Buddhism art was practiced in Indonesia around the 8th century.

研究分野：美術史関連

キーワード：インドネシア マレー半島 密教美術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) インドネシアには、インドから海路でマラッカ海峡を越え、東南アジアのなかでも早くインドの文化が流伝する地域と考えられる。そこでインドで発生した密教の痕跡をインドネシアの寺院や石造像で研究することが必要と考えた。

(2) 大日如来をはじめとする多くの鑄造像や密教に使用される法具(金剛杵・金剛鈴等)の存在を現在まで収集した資料から論文に著してきた。その成果はインドネシア、ジャワ島に密教が8世紀頃には信仰されていた事を導き出しいる。今回の研究では石造像や寺院のレリーフなども含めて密教仏の考察を行い、マレー半島との尊像との比較を試みたいと考えた。

2. 研究の目的

(1) この研究は、未だ解明が十分にされていないインドネシアを中心とした密教美術の考察であり、鑄造像、法具、寺院の尊像およびレリーフをその対象におき、これらからインド発生密教流伝を明らかにするとともに、図像の特徴も確認することに第一の目的に置く。

(2) マレー半島における密教美術の報告は少ない。尊像・法具の調査を行う。

3. 研究の方法

(1) インドネシアの鑄造像、法具、寺院の尊像、寺院のレリーフ、寺院の壁面彫像について現地調査を行う。撮影、測量を行う際には作品を傷めないような機材を選定して行う。帰国後は収集した写真と文書の資料整理を行い、分析・分類を行う。関連する書籍資料を収集し、スキャナーで読み取り、各作品毎に整理する。撮影した資料は全て各博物館へDVDにまとめて郵送する。

(2) 各尊像毎にデータを作成し、頭部・顔面・持物・脚・かかと・服制・装飾・光背・傘蓋などの項目にわけて図像的特徴を明らかにする。

(3) コロナ禍により調査が行えない期間が長く、その間は資料整理を徹底する。プラオサン寺院、ポロブドゥール寺院、ムンドット寺院に焦点をあてて考察する。特に密教の八大菩薩のなかの文殊菩薩、弥勒菩薩を対象に図像を明らかにする。

4. 研究成果

書籍1冊(全320頁)、和文論文2編、英語論文4編を著した。書籍の『改訂版 インドネシアの宗教美術 鑄造像と法具の世界』において、今回の研究成果を加え、ジャワ島とスマトラにおけるヒンドゥー教、仏教、密教に関する尊像約1000軀と法具(儀礼に用いる道具)約600例について考察し、ヒンドゥー教、仏教、密教の像や儀礼の道具が存在していたことを提示した。

また論文や口頭発表では、密教やインドネシア特有の装飾についても触れ、密教に関連のある(1)「獣皮をつけた尊像について」(2018年度)を発表し、論文では「中部ジャワ、チャンディ・プラオサン、祠堂外の仏像群」(2018年度)では密教の八大菩薩のうちの六菩薩が3グループ形成されていたことを立証した。また六菩薩について各像の尊名を比定した。

(2) 八大菩薩のうちの文殊菩薩について、ポロブドゥール寺院のレリーフ『大方広仏華嚴経』「入法界品」やムンドゥット寺院の本堂壁面にあらわされた文殊菩薩や、プラオサン寺院の単独像や各博物館の鑄造像に着目し、「インドネシアにおける三日月形を有する尊像について」(2019年度)として童子の意味合いの強い文殊菩薩像をはじめチャンドラやハヤグリーファなど、月や童子に関連する像に三日月形がみられるとして図像的特徴をあげた。また「インドネシアにおけるマカラについて」(2019年度)インドネシアにみられるマカラという想像上の獣装飾についても、寺院の階段、門や龕、像の光背にあらわされる等まとめた。

(3) 2020年度は学会も開催されず、資料整理を徹底した。それにより膨大な尊像のデータ整理を行うことができた。

(4) また密教の女尊である般若波羅蜜については、「インドネシア般若波羅蜜像について」(2021年度)で東部ジャワ、シンガサリ出土で11~13世紀頃、ジャカルタ国立国立博物館所蔵像(1403/XI1587:126cm)の石造像で優品の1軀をはじめ他に2軀、また鑄造像が単独で2軀、大日如来と対をなす像が2軀である。いずれも転法輪印(說法印)を組む菩薩形で、蓮茎が左側から伸び、左肩の位置で蓮華(開敷、または未開敷)上に梵夾をのせている。現地の經典で10世紀以降成立したとされる古ジャワ語が用いられる『Sang hyang Kamahayanikan』の中に「大日如来の妃」

と記載があることから、インドネシアでは般若波羅蜜は妃的な意味があった可能性が推察される。

(5) 密教の八大菩薩のうちの弥勒菩薩について、「インドネシアにおける弥勒菩薩像の現存作例について」にまとめた。頭部正面に仏塔を有する像が鑄造像(ジャカルタ国立博物館所蔵像(No.6025/c.149))をあげた。優品がスマトラ、ジャンビ出土で、同様の形状が同地区出土で同博物館所蔵の蓮華手観音像(No.6042)にみられることからジャンビの9世紀頃の像の形状の特定がある程度可能となったと考えられる。弥勒菩薩を『弥勒下生成仏経』『観弥勒菩薩上生兜率天経』などに説かれる釈迦後の後継者としての当来仏として、また弥勒が住まう兜率天から下生する下生信仰など、その関係性については現地では経典も確認できないことから信仰については断定ができない。するまの弥勒またジャンビには出土数はジャワ島と比較して圧倒的に数が少ないが、25.0~53.0 cmの優品がみられ、四臂、八臂といった多臂観音がみられることから密教の信仰が確認できる。またそれら形状はジャワ島よりもマレー半島に近いものと考えられる。特にかかとが尖りが確認でき、それはマレー半島にみられる特徴であり、ジャワ島ではみられない。(2022年度)マレーシアやバンコク国立博物館等の所蔵する多臂像との比較がスマトラの密教像との関連を考察するのに重要と考えられる。またボロブドゥールのレリーフにおける尊像との比較も今後必須である。

(6) 「インドネシアの文殊菩薩について」(2022年度)では、先にのべた三日月形を有する像として、文殊を特化してその図像について考察した。アラパチャナ(鑄造像1軀、石造像1軀)や定印を組む像(1軀)もみられるが、右手を与願印、左手で蓮茎を握り、左肩の位置の蓮華上(青蓮華)で梵夾をのせている例が多い。鑄造像で25軀。8~11世紀頃中部、東部、スマトラにみられる。石造像はプラオサン寺院に多くみられ、いずれも三日月形を頭部背後に配していることから、インドネシアでの文殊菩薩の同定にはこの「三日月形」が重要と考えられる。



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 NAOKO ITO	4. 巻 70
2. 論文標題 A Study of Prajnaparamita in Indonesia	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1207 1214
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤 奈保子	4. 巻 305號
2. 論文標題 インドネシアにおける三日月形頭光を有する尊像について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『史學研究』広島史学研究会創立90周年記念号	6. 最初と最後の頁 265, 281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 ITO NAOKO	4. 巻 第68巻第3号、通巻151号
2. 論文標題 Makara in Indonesia Focusing on Java and Sumatra	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Indian And Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1257, 1263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ITO Naoko	4. 巻 67, No.3
2. 論文標題 On the Groups of Buddhist Statues Outside the temples in Candiplaosan, Central Java	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Indian and Buddhist Studies	6. 最初と最後の頁 1203-1209, 1352
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計6件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 インドネシアにおける般若波羅蜜多菩薩坐像について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第72回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 インドネシアにおける弥勒菩薩像の現存作例について
3. 学会等名 仏教文化学会第30回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 インドネシアの尊像における童子形表現について
3. 学会等名 第48回 豊山教学大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 インドネシアのマカラについて—ジャワとスマトラを中心に—
3. 学会等名 第70回学術大会 日本印度学仏教学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 ジャワにおける獣皮を着けた尊像について
3. 学会等名 豊山教学大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤奈保子
2. 発表標題 中部ジャワ、チャンディ・ブラオサン、祠堂外の仏像群について
3. 学会等名 日本印度學佛教学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 伊藤 奈保子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 320
3. 書名 改訂版インドネシアの宗教美術：鑄造像と法具の世界	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------